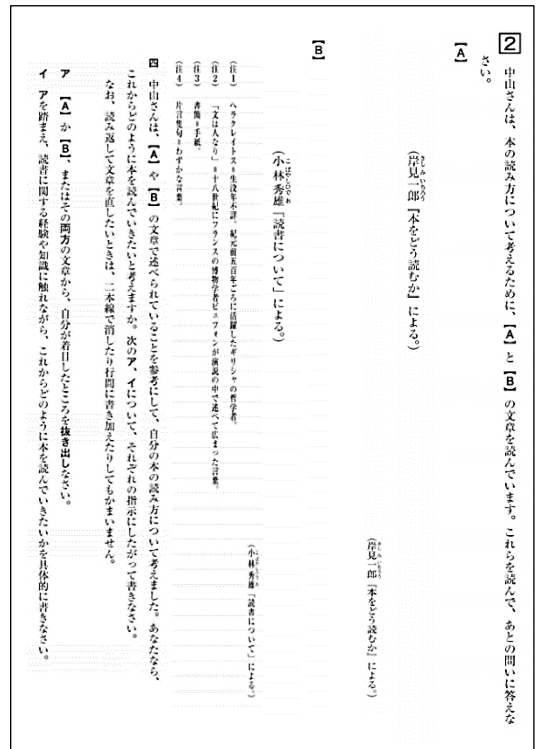


1 調査問題 2 四

(文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く問題です。正答率は全国とはほぼ同程度、また、長野県をやや上回っており、本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす力はおおむね定着していると考えられます。しかし、文章から自分が着目した「読書の楽しみ方」を抜き出し、これから自分がどのように本を読みたいかについて具体的に書くことはできていても、その際、読書に関する自分の経験や知識に触れて記述することができない生徒が見られました。これは、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があると考えられます。



(2) 指導の改善・充実に向けて

自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章を読んで知識や経験を単に想起するのみでなく、文章を読んで理解したことや考えたことと結び付けて、一層具体的で体系的なものにしていくことが大切です。

そのためには、以下のような学習過程を設定し、「文章を読んで理解したことや考えたことについて自分の知識や経験と結び付けながらレポート等にまとめる事」と「他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりする事」を通して、物事に対する新たな視点を獲得し、自分の考えが広がったり深まったりしたことを実感することが必要だと考えられます。

- ① 説明的な文章を読み、筆者の考えを理解する。
- ② 筆者の考えに賛成、あるいは反対の立場を設定し、自分の知識や経験と結び付けながらレポート等にまとめる。
- ③ 互いのレポート等を読み合い、他者の考えに共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりして得た新たな気づきをもとに、自分の考えを広げたり深めたりする。

実際の授業の場面では、児童生徒が自分のよりよい学びの姿を意識しながら学習に取り組むことができるよう、次ページのようなルーブリック(表 1)などを活用し、目指す姿を確認できるようにします。レポートを作成する場面では、自分の知識や経験を根拠に、自分の考えを論理的に記述することで説得力のある記述ができるように、教師による支援が必要です。レポートを読み合う場面では、共感・疑問・自分の考えとの違いを観点に、気付いたことを書き出してお互いに伝え合えるようにします。その際に、ICT 機器を使い、オンラインホワイトボードツール(Jamboard など)を活用します。学習の振り返りの場面では、ルーブリックを生かし、自分の考えの広がりや深まりを自己評価します。また、関連する内容の本を読んでもみるという活動を単元の終末に設定することも効果的です。

表1 児童生徒が自分のよりよい学びの姿を意識するルーブリックの例

	目指す姿	更に目指したい姿(例)
本文の内容読解	筆者の考えを理解し短くまとめることができる。	筆者の考えを理解し、自分の言葉で説明することができる。
レポート作成	自分の立場を明確にし、適切な知識や経験を選択してレポートにまとめることができる。	自分の立場を明確にし、適切な知識や経験を選択し、より説得力のある構成を意識しながらレポートにまとめることができる。
レポートの読み合い	自他の考えの違いに着目しながら読み、読書に関する経験や知識と結びつけたり新たな気づきをもとに自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	読み合いで理解した、読書に関する経験や知識と結びつけて考えることや新たな気づきをもとに自分の考えを広げたり深めたりすることのよさを自分の言葉で説明することができる。

2 調査問題 3

(具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに見出しを付ける問題です。

正答率は全国とはほぼ同程度、また、県をやや上回ったことから、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係のうち、特に、具体と抽象に係る関係について理解する力が、おおむね定着していると考えられます。一方で、『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分けることはできていても、後半のまとまりの内容に合う見出しを書くことができていない生徒がみられました。

これは、後半のまとまりが、前半の『判じ絵』とは何か」という内容とは違う内容であると理解できても、『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのか」について具体的に説明していることを捉え、その内容に合う『判じ絵』の起源と広がり」のような言葉で整理し、前半との違いを表現することに課題があると考えられます。

『判じ絵』について

山田 光一

3. 調査結果

■『判じ絵』とは何か

『判じ絵』とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「話し合っ」て考えることが必要になる。(イ)言ってみれば、なぜかクイズのようなものである。(ウ)また、『判じ絵』の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間にも広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができるとのこと。

■『判じ絵』の解読の面白さ

『判じ絵』の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】は、

【図3】

【図3】

(2) 指導の改善・充実に向けて

調べたり考えたりしたことをレポート等にまとめて書く際には、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、自分の考えが伝わる文章にするために工夫したり、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えたりすることが大切です。

そのために、指導にあたっては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と関連させながら、以下のように情報と情報との関係について考えたり情報を整理したりする学習場面を設定し、「知識・技能」の向上につなげる必要があります。

- ① 「話すこと・聞くこと」の単元でスピーチ等を行う学習活動において、「意見」と「根拠」、「具体」と「抽象」等を観点にして効果的な構成を工夫して話し、それらの情報同士の結び付きに注意して聞き、話の要点を見出しにまとめ、話し手の目的や意図に照らして効果的な構成かどうか考え合う場面を設ける。
- ② 「読むこと」の単元で説明的な文章を読む学習活動において、読み取った情報を付箋や図表を使い、上記の観点で比較、分類、関係付け等を行って整理し、筆者の表現の工夫を確かめ合う場面を設ける。

また、個人差が顕著にあらわれる「書くこと」の単元では、一斉一律に作文を書き進める学習展開でなく、単元内自由進度学習を設定することが効果的です。題材の設定から推敲までの一連の流れを、生徒が自分に合った進度や方法を調整しながら活動できるようにしたいものです。その際、調査問題②四で示したルーブリックを活用し、生徒自身が自己評価を支援することも大切です。